

令和 5 年 5 月 23 日現在

機関番号：37102

研究種目：基盤研究(C)（一般）

研究期間：2018～2022

課題番号：18K00249

研究課題名（和文）伝統産業の需要分析：九州北部の伝統工芸品に関する計量経済学的アプローチ

研究課題名（英文）Analysis of Demand for Traditional Crafts in Northern Kyushu

研究代表者

黒木 宏一（KUROKI, Koichi）

九州産業大学・経済学部・准教授

研究者番号：00618150

交付決定額（研究期間全体）：（直接経費） 2,600,000円

研究成果の概要（和文）：本研究は、第一に、統計データによる日本産陶磁器と他国産との代替関係の検討や国内需要構造の分析、第二にアンケートデータによる潜在需要の存在や伝統工芸品を好む消費者の特徴の解明等を進めた。結果として、九州北部の伝統工芸品（陶磁器）を対象として、2008年度に08J54283の一環として実施したアンケート調査の結果との異時点間比較を通して、消費者の基本的な属性や価格、数量、品質の良し悪しなど、伝統工芸品の購買意思決定の関連性等を明らかにした。

研究成果の学術的意義や社会的意義

伝統産業（伝統工芸品産業）の研究は、産地に形成される産業組合や作家に焦点をあて産地や工芸品のブランディングを志向する、いわゆる「供給サイド」の研究報告が多い。そのような中で、われわれのグループは、陶磁器をはじめとする伝統工芸品需要の統計解析を進めるなど、「需要サイド」の研究に取り組んできた。需要の減退によって産業の衰退がみられるが、地域の誇る伝統産業は「持続可能な産業として再生を図ること」が今日的な課題である。本研究は、「新たな需要」の創出に資するため、消費者のニーズの多様性に着目し伝統工芸品の需要構造の解明に迫ろうとした点に、研究の意義を見出せるものと思料する。

研究成果の概要（英文）：The purpose of this research encompassed two main points. Firstly, it aimed to analyze the relationship of substitution between Japanese ceramics and other domestically produced ceramics using statistical data. Furthermore, statistical data was used to analyze the domestic demand structure. Secondly, survey data was used to clarify the existence and characteristics of latent demand among consumers who preferred traditional crafts.

As a result of this research, for example, the following things were clarified. Comparing findings from different time points revealed that basic attributes such as price, quantity, and quality were involved in traditional craft purchasing decisions.

研究分野：経済学

キーワード：伝統工芸品 伝統産業 伝統工芸品産業 需要分析 消費者意識 統計データ アンケート調査 北部九州

科研費による研究は、研究者の自覚と責任において実施するものです。そのため、研究の実施や研究成果の公表等については、国の要請等に基づくものではなく、その研究成果に関する見解や責任は、研究者個人に帰属します。

様式 C - 19、F - 19 - 1、Z - 19 (共通)

1. 研究開始当初の背景

研究代表者らが在籍する九州産業大学は 2004 年度に文科省の 21 世紀 COE プログラム「柿右衛門様式陶芸研究センタープログラム」(以下、「COE プログラム」という)の採択を受け、芸術と産業に 2 極化した世界の陶芸人材育成の在り方に一石を投じる世界的にも新しい方向を志向し、わが国の伝統を生かす分野において、理論と技術と芸術性を兼ね備えた高度な人材を育成し、伝統工芸の水準の昂揚を目指す研究を進め、完成年度以降も研究活動を継続し、2017 年度に伝統みらい研究センターへと拡充が行われている。

研究分担者 内山敏典は、COE プログラム採択時から COE 事業推進担当者として主に陶芸専門家育成教育の需要や陶磁器の需要についての統計解析を行い、多数の研究成果を発表している。また、研究代表者 黒木宏一は、内山のもとで、2008 年度に科学研究費補助金(特別研究員奨励費)を得て「佐賀県の陶磁器の生産、流通および需要構造に関する分析研究」と題する研究を行った。

これまでの研究で、研究当時の佐賀県の陶磁器産業の構造の全体像を供給面および需要面から把握がある程度進みつつある。しかしながら、消費者アンケートを基にした需要サイドの研究からはすでに 10 年を経ており、この間に当該産業を取りまく経済環境の変化がみられている。黒木 2008 が研究の対象とした九州には、21 の指定された伝統工芸品があるものの、従来の需要の減退によって産業の衰退がみられる現状にある。このような状況下ではあるが、地域の誇る伝統産業として「持続可能な産業として再生を図ること」が今日的な課題となっている。そこで、本研究は、これまでの研究成果を踏まえつつ「新たな需要」の創出に資するための消費者のニーズの多様性に着目した分析を、経済統計学的手法を用いて試みたい。

2. 研究の目的

本研究は、九州北部地域の指定伝統的工芸品のうち、これまでも研究が行われており、研究代表者らのこれまでの研究に接続可能な陶磁器産業に着目し、伊万里・有田焼、小石原焼に主眼を置きつつ、消費者のニーズの多様性に着目した分析を試み、地域の伝統産業における生産の維持拡大を志向する「新たな需要」の創出に資する新知見を得ることを目的として研究を行った。なお、伝統産業として第一に伊万里・有田焼及び小石原焼を採り上げる理由は、前者は研究代表者らがこれまでも研究対象とした工芸品であり全容を把握するため継続的な研究が必要であること、後者は伝統産業が村の中心的な産業であり、平成 29 年に発生した九州北部豪雨災害という自然災害の影響等を踏まえた産業の意義の再検証を行う必要があったからであった。

3. 研究の方法

2 節で述べたように本研究の目的は、九州北部地域の指定伝統工芸品のうち陶磁器産業に着目し、消費者のニーズの多様性に着目した分析を試み、当該産業における生産の維持拡大を志向する「新たな需要」の創出に資する新知見を得ることであった。この目的を果たすため、本研究は(1)公統計の利用による需要分析、(2)アンケート調査による需要分析の、2つの方法で研究を進めた。

4. 研究成果

3 節で述べたように本研究は(1)公統計の利用による需要分析、(2)アンケート調査による需要分析の、2つの方法で研究を進め、概ね以下のような研究成果を得た。なお、研究成果の詳細は、「5. 主な発表論文等」に記載した公開の各論文等に委ねるものとして、本節においてはその成果の概要をまとめることにした。以下、各号文章末尾の【 】内は関連する研究成果であり、「5. 主な発表論文等」に記載した公開の各論文等の著者名と発行年に対応している。ただし、同一著者、同一年の成果については、「5. 主な発表論文等」に記載の順に従って発行年の後に a, b, c の文字を便宜的に付した。

(1) 公統計の利用による需要分析に関連する研究成果の概要

主要な日本産陶磁器輸出先である香港における日本産陶磁器の需要構造について計量経済分析を行い、日本産陶磁器が他国産に比べ市場支配力を持っているかを検証した。分析は、LA/AIDS モデルを用い、中国、日本、EU という香港市場の輸入上位 3 か国、2010 年から 2017 年のデータから、需要体系を推定し、その推定結果からさらに各種弾力性とプライス・コストマージンを推計した。結果として、日本産陶磁器は製品差別化されている可能性が高いが、日本の市場支配力は次第に弱まりつつあることを明らかにした。【学会発表, 外園智史, 2018; 雑誌論文, 外園智史・黒木宏一・内山敏典, 2021】

『家計調査年報』を用いて、ウォールド&コレインの需要理論により陶磁器等耐久消費財の需要構造の計量分析をおこなった。その結果、金額弾力性が数量弾力性より大きいとの結果を得た。生産者は消費者需要構造を理解し、高付加価値の財を生産することが重要であることを示唆した。【雑誌論文, 内山敏典・黒木宏一, 2021】

『工業統計』の生産額データを用いて、福岡、佐賀両県における陶磁器産業のシフトシェア分析を行った。その結果、先行研究同様に、地域特殊要因による増減率が産業構造要因の増減率よりも概ね高く、地域特殊要因の影響が強いことが確認された。【雑誌論文, 黒木宏一・外園智史・内山敏典, 2019】

高度経済成長期等とは異なる、近年のわが国の社会経済状況下における伝統工芸品の需要構造の分析を試みた。1997年から2017年の家計調査データを用いて、同期間における全国、九州地方および北九州・福岡大都市圏の分析結果の比較から品目毎の所得効果、価格効果及びストック効果の有無、その大小を明らかにした。【雑誌論文, 内山敏典, 2019】

1916年から1942年の売立目録収録のデータを用いて、陶磁器の製品特性と価格の関係を統計的に分析した。分析の対象とした陶磁器の特性は、模様、色彩、様式、器種及び制作年代とした。これらの製品特性と価格の分析を、数量化 Ⅱ類を用いて行った結果、価格に対して影響の強い製品特性の存在を明らかにした。【雑誌論文, 黒木宏一・内山敏典, 2022; 学会発表, 黒木宏一・内山敏典, 2021; 学会発表, 黒木宏一・内山敏典, 2022】

(2) アンケート調査による需要分析に関連する主な研究成果

2018年度に実施した「陶磁器の購買意識に関する調査」のアンケート調査データの解析を行い、関東、中部、近畿及び九州の地方別分析結果の比較、並びに10年前に筆者らのチームが実施した研究結果との比較を行い、陶磁器の品質と価格についての消費者意識を整理した。特記すべき含意として、「価格が高くても品質が良ければ購入すると思う」との回答は、2008年の調査と今回で「性別」の部分に異なる傾向があることが挙げられる。【雑誌論文, 黒木宏一・内山敏典, 2019】

博多織について、九州地域の成人女性の意識調査分析を行い、技術保存のための高付加価値製品、低価格かつ高品質の小物製品、住宅関連企業とのコラボレーションによる製品を、それぞれ生産することが必要であることを指摘した。【雑誌論文, 内山敏典, 2020a】

われわれは、陶磁器産業を中心に研究を進めたが、これに加えて「織物」と「家具」の需要分析を試みた。久留米絨について、九州地域の成人男女の意識調査分析を行い、潜在需要の存在や既に製品を持っている消費者層を明らかにした。【雑誌論文, 内山敏典, 2020b】

2018年度に実施した「陶磁器の購買意識に関する調査」のアンケート調査データの解析を行い、世帯の購買行動を担う専業主婦(主夫)に焦点を当てた陶磁器需要の分析から、購買行動が主に「数年1回・それ以下」「割れたとき・消耗したとき」「陶磁器は購入しない」の3つに分類されることを明らかにした。【雑誌論文, 内山敏典, 2020c】

家具の価格について、九州北部と南部の消費者意識の特徴を比較検討し、消費者意識を十分に意識した対応の必要性などを指摘した。【雑誌論文, 黒木宏一・外園智史, 2020】

2019年度までに進めてきたアンケート調査による需要分析を補強するためのアンケート調査を、調査対象指定伝統的工芸品:「小石原焼」「伊万里・有田焼」、対象年齢層:20歳から69歳、対象地域:沖縄を除く九州各県として、インターネットリサーチを用いて2022年6月に実施し、1,078件の回答を取得した。この調査からは、例えば単純集計の結果、次のような傾向が明らかとなった。両伝統的工芸品を「知っているものの、今後(も)当該工芸品を購入したいか否か」について、「伊万里・有田焼」の方が「購入したい」との回答の割合が高かった。なお、取得したデータの分析については、研究期間満了後も引き続き継続させる予定である。

5. 主な発表論文等

〔雑誌論文〕 計10件（うち査読付論文 6件 / うち国際共著 0件 / うちオープンアクセス 6件）

| | |
|--|---------------------|
| 1. 著者名 黒木 宏一, 内山 敏典 | 4. 巻 5 |
| 2. 論文標題 陶磁器価格に影響を及ぼす製品特性の統計的分析 | 5. 発行年 2022年 |
| 3. 雑誌名 伝統みらい研究センター論集 | 6. 最初と最後の頁 53-64 |
| 掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし | 査読の有無 有 |
| オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である) | 国際共著 - |
| 1. 著者名 外園智史・黒木宏一・内山敏典 | 4. 巻 53 |
| 2. 論文標題 香港陶磁器市場における日本の市場支配力 | 5. 発行年 2021年 |
| 3. 雑誌名 産業経営研究所報 | 6. 最初と最後の頁 1-6 |
| 掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし | 査読の有無 無 |
| オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難 | 国際共著 - |
| 1. 著者名 内山敏典・黒木宏一 | 4. 巻 4 |
| 2. 論文標題 「家計調査」にみる伝統工芸品需要の時系列分析 | 5. 発行年 2021年 |
| 3. 雑誌名 伝統みらい研究センター論集 | 6. 最初と最後の頁 1-17 |
| 掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし | 査読の有無 有 |
| オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である) | 国際共著 - |
| 1. 著者名 黒木宏一・内山敏典 | 4. 巻 43号 |
| 2. 論文標題 日用品としての陶磁器の品質と価格に関する消費者意識の一考察 - 多重分類分析を用いたアンケート調査データの解析から - | 5. 発行年 2019年 |
| 3. 雑誌名 JAPA九州 | 6. 最初と最後の頁 15-22 |
| 掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし | 査読の有無 有 |
| オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難 | 国際共著 - |

| | |
|---|---------------------|
| 1. 著者名 黒木宏一・外園智史 | 4. 巻 第24巻第3・4号 |
| 2. 論文標題 家具の価格に関する消費者意識の一考察 - 九州地域の伝統工芸品に関するアンケート調査データの解析から - | 5. 発行年 2020年 |
| 3. 雑誌名 エコノミクス | 6. 最初と最後の頁 79-90 |
| 掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし | 査読の有無 無 |
| オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難 | 国際共著 - |

| | |
|--|--------------------|
| 1. 著者名 内山敏典 | 4. 巻 第3号 |
| 2. 論文標題 博多織需要に関する成人女性意識の計量分析 | 5. 発行年 2020年 |
| 3. 雑誌名 伝統みらい研究センター論集 | 6. 最初と最後の頁 1-28 |
| 掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし | 査読の有無 有 |
| オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である) | 国際共著 - |

| | |
|--|---------------------|
| 1. 著者名 内山敏典 | 4. 巻 第24巻第3・4号 |
| 2. 論文標題 伝統工芸品久留米絣の需要構造分析 | 5. 発行年 2020年 |
| 3. 雑誌名 エコノミクス | 6. 最初と最後の頁 33-52 |
| 掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし | 査読の有無 無 |
| オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である) | 国際共著 - |

| | |
|--|-----------------------|
| 1. 著者名 内山敏典 | 4. 巻 第60巻第5・6号 |
| 2. 論文標題 アンケート調査に基づく専業主婦の陶磁器需要分析 | 5. 発行年 2020年 |
| 3. 雑誌名 経済学論纂 | 6. 最初と最後の頁 107-120 |
| 掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし | 査読の有無 有 |
| オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である) | 国際共著 - |

| | |
|--|--------------------|
| 1. 著者名 内山敏典 | 4. 巻 第2号 |
| 2. 論文標題 「伝統工芸品の需要構造分析 「家計調査」データの計測に基づく金額弾力性と数量弾力性からのアプローチ | 5. 発行年 2019年 |
| 3. 雑誌名 九州産業大学伝統みらい研究センター論集 | 6. 最初と最後の頁 1-10 |
| 掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし | 査読の有無 有 |
| オープンアクセス オープンアクセスとしている(また、その予定である) | 国際共著 - |

| | |
|--|---------------------|
| 1. 著者名 黒木宏一・外園智史・内山敏典 | 4. 巻 第51号 |
| 2. 論文標題 福岡および佐賀県の窯業の成長要因に関する計量分析 | 5. 発行年 2019年 |
| 3. 雑誌名 産業経営研究所報 | 6. 最初と最後の頁 53-60 |
| 掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし | 査読の有無 無 |
| オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難 | 国際共著 - |

〔学会発表〕 計3件(うち招待講演 0件/うち国際学会 0件)

| |
|--|
| 1. 発表者名 黒木宏一, 内山敏典 |
| 2. 発表標題 陶磁器に影響を及ぼす製品特性の統計的分析 |
| 3. 学会等名 九州産業大学伝統みらい研究センター令和3年度研究成果報告会 |
| 4. 発表年 2022年 |

| |
|---|
| 1. 発表者名 黒木 宏一, 内山 敏典 |
| 2. 発表標題 陶磁器の製品特性と価格：20世紀前半の売立目録の統計分析 |
| 3. 学会等名 日本計画行政学会第44回全国大会 |
| 4. 発表年 2021年 |

| |
|---------------------------------|
| 1. 発表者名 外園 智史 |
| 2. 発表標題 香港における陶磁器需要構造の計量経済分析 |
| 3. 学会等名 日本経済政策学会西日本部会第101回大会 |
| 4. 発表年 2018年 |

〔図書〕 計0件

〔産業財産権〕

〔その他〕

-

6. 研究組織

| | 氏名 (ローマ字氏名) (研究者番号) | 所属研究機関・部局・職 (機関番号) | 備考 |
|-------|---|---|----|
| 研究分担者 | 内山 敏典 (UCHIYAMA Toshinori) (10151903) | 九州産業大学・学術研究推進機構・科研費特任研究員 (37102) | |
| 研究分担者 | 外園 智史 (HOKAZONO Satoshi) (40611570) | 九州産業大学・経済学部・准教授 (37102) | |

7. 科研費を使用して開催した国際研究集会

〔国際研究集会〕 計0件

8. 本研究に関連して実施した国際共同研究の実施状況

| | |
|---------|---------|
| 共同研究相手国 | 相手方研究機関 |
|---------|---------|